



町の起こり

戦国時代、平泉寺の支配下にあった頃、大野盆地を南袋、勝山盆地を北袋と呼んでいた。北袋は数十の村で成り立ち、その中に袋田村があり、勝山町ではいちばん古い地名である。

平泉寺が一向一揆によって焼き滅ばされ、人々は一向一揆軍の砦であった村岡山を勝山（かちやま）と名付けた。その後、柴田勝家の命を受けた一族の柴田義宣とその養子柴田勝安（勝政）が一揆軍を平定して、天正8年（1580）袋田村に居城を築いた。

そして、村岡山の縁起をかつぎ、袋田村一帯を「勝山」と改めた。これにより、勝山は袋田村を中心に村から城下町としての原形が作られた。

天正11年（1583）賤ヶ岳の戦いで、勝安は勝家と共に敗れ滅亡したが、その後、百数年間、勝山は領主の交代が続きながらもまちづくりは徐々に行われ、尊光寺など各寺院が後町に建てられ、本町には商家が並び、町としての形態が整ってきた。

元禄4年（1691）7月、小笠原貞信が美濃高須から入封してから、勝山は城下町として完全な形になった。郡町、袋田町、寺町を勝山三町と称し、七里壁の上は武家屋敷町として整備された。

その後、三町から街道沿いに、西に長測、南には立石と人々が住むようになってきた。北には淨願寺を中心に寺町とは異なった門前町としての芳野町が発展していった。

小笠原氏念願の勝山城は残念ながら完成をみるに至らなかったが、明治になるまで約180年の間、小笠原氏の城下町として続いた。しかし、明治29年（1896）の大火によって七里壁より下の町並みはほとんど焼き尽くされた。

町は、大火後、すぐに町民の力により復興され、やがて、元禄外地、沢外地にも民家が建ちはじめ、今日の市街地ができあがった。

明治、大正、昭和と時代が流れ、昭和29年（1954）に勝山町以下1町8か村が合併し、新生勝山市が誕生した。

平成の現代にも町中にはよき時代の歴史的遺産や懐かしい地名、伝統行事が残り、道路も昔とほとんど変わっておらず、その面影が今もところどころに偲ばれる。

町の歴史遺産 （マップ写真参照）

①金燈籠　市指定文化財（工芸）

本町岸の下の通称毘沙門と親しまれている下袋田区の建雷（タケイカズチ）神社境内にある。万延元年（1860）越中高岡で造られ、おたね坂下、本町通りの四つ角に常夜燈として建てられたが、昭和に入り車馬の通行が多くなり、現在地に移された。

②いざり機、ハッタン機　市指定文化財（民俗）

明治から大正時代に広く使用されたが、現在では県内でも数少ない貴重な文化財である。元禄線通り脇に建っているケイテー繊維史料館に保管されている。

この史料館には他にも勝山兄弟合資会社時代からの織物に関する多くの用具などが大事に保存されている。

③なでしこ塚（芭蕉句碑）

国泰寺境内に建っている石碑で芭蕉の句「酔て寝ん撫子咲ける石の上」と刻まれている。その隣には三角形の小さな比良野帰雲坊の句碑がある。なでしこ塚は享和2年（1802）立川の伯立院に建てられたが、江戸時代立石の大火で損傷し、その後、帰雲坊の社中が明治31年（1898）に国泰寺に再建した。

④旧平泉寺道と道標

元町三丁目の立石郵便局側の十字路から東南に進む道が昔の平泉寺道で、立石道から平泉寺詣てへの道であった。

路傍に建つ石の道標は大正3年（1914）旅館業を営む角吉、板甚、米伊の三主人が寄附したもので、文字は丸屋説三氏の書である。

⑤旧成器堂講堂　市指定文化財（建造物）

成器堂は天保12年（1841）藩の人材養成を目的に開校、はじめ読書堂といったが天保14年に成器堂に改称した。この講堂は他の建物と共に勝山城外大手門筋に建てられたが明治44年（1911）に現在の場所に移築された。他の建物遺構は明治の初めに売却され、現在も市内に残っている。

⑥勝山左義長（ドンド）　市指定文化財（民俗）

350年以上続いている五穀豊穰を祈る行事で、後に火伏せの神事を合わせた祭りである。町内13ヶ所に松飾り（御神体）と入母屋造りの櫓を建てる。左義長としては県下最大の祭りである。

櫓が建つ左義長は勝山だけで、櫓の上では笛、三味線、鉦に合わせて女装した浮き男の打つ太鼓の音が町中に響きわたる。

⑦常我坊句碑（石燈籠）

中後明覚寺入口に石灯籠が建っており、その竿に常我坊の句が刻まれている。常我坊は尊光寺の住職。俳人として勝山美濃派第六世を継ぎ号を山月楼と称し、著書に「五霊の手向」がある。

⑧ドンド焼き

左義長は本来ドンドといい全国各地で行われている。町中や田んぼなどに建てられた松飾りに正月のしめ飾りや縁起物を重ね、子供達の書き初めを結び燃やす。

勝山のドンド焼きは祭り最終日の夜、各町より九頭竜川河原に移された13本の松飾りに一斉に点火され、祭りのフィナーレを飾る。ドンド焼きの場所を左義長はやし所と呼ぶ。

⑨後町の大清水

下後の旧花月楼の裏にあり、明治28年（1895）地元の人達によって不動明王が祀られ、7月27日、大清水祭りとして大変賑わった。

勝山には、松本院、神明下、岸の下、やどめ、こわ清水など数多くの清水が湧いていたが、昭和中期にほとんど枯渇してしまった。

⑩年の市

冬の風物詩として本町通りで開かれる伝統の市である。

小笠原藩政時代、村部と町との交流の場であり、農家は冬の副業とする手づくり品を持ちより町中に素人商いの市がたつた。以前は暮れの12月26日と正月26日の二回開かれ、二十六日市とも呼ばれたが近年は1月の最終日曜日に開かれる。

⑪勝山の機屋

明治から昭和時代にかけて、勝山は織物王国として栄え、羽二重から人絹へと移っていった。家内工業として小機屋が隆盛し「ガチャマン」という言葉も生まれた。昭和から平成時代にかけて織物工業も衰退し機屋の数も少なくなってきた。往時の面影を残す機屋の古い建物、家並みが今も元禄や長測、富田などに何軒か残っており町にとっては重要な建造物である。

⑫小笠原家廟所　市指定文化財（史跡）

沢町の小笠原家の菩提寺、開善寺（臨済宗）墓地にある。廟所は約10メートル四方の広さで初代貞信から七代長貴までの墓が上段に建てられ、下段には家族の墓が並べられている。

開善寺入口の山門は鐘楼を兼ね明治29年の大火によって焼失した本堂の焼け残った本材で建てられたもので、この門もまた重要な建造物である。

勝山の大火によって焼失した寺院は18ヶ寺で火元の上の伯立院と七里壁上の大連寺、義宣寺などはこの難を逃れたがその後建て替えられている。

⑬柴田監物　勝政（勝安）の墓

富田にある「義宣寺」（曹洞宗）境内に建っており、二人の法名が刻まれている。裏側に柴田監物義宣、柴田三左衛門勝成墓（原文のまま）と刻まれている。

古文書では勝政は勝安と記されている。

⑭光明院と如意輪観音菩薩坐像　市指定文化財（彫刻）

光明院（白山神社）は、沢の県道筋に建ち「コンメンさん」の名で親しまれている。勝山城の鬼門鎮守として平泉寺の白山妙理権現を勧請されたという。

光明院（白山神社）には、高星彦命を祀り本地仏「如意輪観音菩薩坐像」が安置されて、五月の祭りには子供相撲が奉納される。旧白山神社は明治4年（1871）神明神社に合祀され、光明院は改築され本殿の前屋根は大正時代の神明神社拝殿の破風を移築した。

⑮走りやんこ　市指定文化財（民俗）

明治29年（1896）の勝山大火の日を記念し、4月13日を春季消防演習日と定めている。演習終了後消防団員が制服に長靴姿で市街地から長山公園まで纏をリレーしながら町の中を駆け抜けゴールをめざす。各組とも最後のランナーが長山の決勝点で標旗を纏で突き倒す。このことを「ぶんでん突き」という。

この行事は、明治時代に各町別五組に組織された時から余興として行ったのが始まりである。

長山公園は幕末時代、藩兵の訓練場で、講武台と呼ばれた。

⑯勝山城址

現在の市役所一帯は勝山城本丸や旧天守台の跡地である。昭和29年（1954）勝山市が誕生し、新庁舎が建ちお堀などが埋められた。

唯一残された旧天守台も昭和42年（1967）市民会館を建てる折にくずされ完全にその姿を消した。

今は市民会館前の庭に明治22年に旧天守台上に建てられた「勝山城址之碑」だけが残っている。最後の藩主長守公の書である。

⑰林毛川遺徳碑

市民会館前の建雷神社の本殿横に建てられている大きな石碑。以前は旧町役場

跡地であった。現在は市民会館の敷地内にある。

成器堂跡地にあったが元禄線改修工事のため昭和60年頃ここに移された。

勝山藩家老、林季梁（毛川は号）（天保時代）の業績を讃えたもので篆額の小笠原長守書、毛川の長男林雪籥（本名陳）が書いた。

⑱正等寺通用門

正等寺が明治29年（1896）の勝山大火後、後町（旧北陸電力跡）より元禄に移り、その時に家中武家屋敷の脇屋家の門を譲り受けたと伝えられている。

この門は、江戸時代から明治時代まで、藩政時代から戦後まで、約250年続いた。

この門は、江戸時代から明治時代まで、藩政時代から戦後まで、約250年続いた。

この門は、江戸時代から明治時代まで、藩政時代から戦後まで、約250年続いた。

この門は、江戸時代から明治時代まで、藩政時代から戦後まで、約250年続いた。

この門は、江戸時代から明治時代まで、藩政時代から戦後まで、約250年続いた。改修された坂だといわれている。

○神明坂（本町4丁目）

郡町より元禄へと進む坂道で神明神社前に出る。

この辺りには武家の土蔵や藩のお倉が建ち並び別名お倉坂ともいう。神社前を進み十字路の所に藩会所があってその前の橋を縁切橋と呼んだ。

○大手坂（本町3丁目）

江戸時代、城下町からお城大手門に向う坂で藩主が参勤交代の時や左義長見物などに通った坂道で昭和時代まで坂の左上に勝山警察署が建っていた。

○石坂と札の辻（本町3丁目）

本町通りからサンプラザへ向う坂道で、江戸時代坂の途中に大庄屋会所が建っていた。その前から岸の下に入る道があり、七里壁が続いている。

坂の登り口を「札の辻」といい藩の高札が立てられていた。

○おたね坂（本町1丁目）

本町通りから市民会館へ向う坂道で、昔お堀端に身を投げて死んだ町娘と城勤めの若侍の悲話が残っている。岸の下に住む子守女が「お種あわれやオベロコヤ、お種が死んだらオベロコヤ」と唄いながら坂を登り降りしていたのでこの坂をお種坂と呼ぶようになったと伝えられている。

○お堀端と鉄砲横町

旧天守台の下はお堀で囲まれており、お堀端通りと呼んで親しまれた。また、お堀端通りから現在の法勝寺までを鉄砲横町と呼んだ。藩政時代鉄砲組の屋敷が

建っていたところからその名がついた。

法勝寺前の大連寺川にかかる橋は藩家臣安田参溪の屋敷がその側にあったことから、参溪橋と呼ばれた。

○堤町（沢町）

開善寺から大連寺の一帯を堤町と呼んでいた。昭和の中期まで左義長には朱色の欄干の小さな櫓が建ち堤櫓と呼ばれていた。

勝山城のお堀の堤に当るところから堤町の名がついたのであろう。

開善寺前の石敵家は町の重要な建造物の代表的建物である。

○雲平通り（本町2丁目3丁目）

勝山神明神社へ登る表参道の前から後町へと抜ける道で智道横町とも呼ばれていた。

○万都（まちいち）通り（本町1丁目2丁目）

お種坂下を米屋横町といい浄土寺屋の米蔵が建っていた。本町から後町に入る道を万都通りと呼び、また魚横町とも呼ばれていた。

○本町見附とお島通り　上長測区

堤町から下る坂を「下の坂」といい、本町の一番下を本町見附と呼んでいた。

お島通りは本町見附から西の上長測通りのこと。昭和初期まで牛首方面への乗り合い馬車の駅がありその前にお島茶屋があって馬車を待つ客で賑わった。そのため、この通りをお島通りとも茶屋通りとも呼ばれていた。

○義宣寺前通り（富田区）

下の坂すぐ下より富田へ行く細い道で、義宣寺の門徒などが開いたといわれる門前町で、後町の職人町とは趣が異なった寺前通りで、そば屋や餅屋、土産物屋などが並んでいた。

富田の地名も古く柴田義宣が当初に富田城（現義宣寺）として居城を構えた所からで、義宣寺橋は以前は富田橋と呼んでいた。

○茶所と番所

下長測の見性院では滝波松原道から町へ入る旅人に湯茶をふるまったことからお茶所と呼ばれた。

茶所から町へ入ると大連寺川の石橋の手前に番所があり身元改めが行われた。また、立石には南の茶所と呼ばれる伯立院が管理する十王堂があり大野からの旅人はここで一休みした後竜仙寺の手前の番所で身元改めをされ町に入った。

この十王堂では平泉寺御開帳の前夜に盆踊りがたち夜明けまで賑わったという。

この十王堂では平泉寺御開帳の前夜に盆踊りがたち夜明けまで賑わったという。

この十王堂では平泉寺御開帳の前夜に盆踊りがたち夜明けまで賑わったという。

○七里壁と岸の下
九頭竜川の強い流れによってできた河岸段丘で、大渡から永平寺町鳴鹿まで断続的に約七里続いているところから七里壁と名がついた。

石坂から下の坂までの七里壁の真下を岸の下といい、壁の上は岸の上と呼んでいた。

○柳通りと組町

元禄の名は小笠原貞信が元禄4年（1691）に勝山に入封した時に始まり、武家屋敷が建っていたことから「家中」とも呼ばれた。

元禄の旧法務局前から正等寺までの通りを柳通りと呼んだ。また正等寺前から南の通り一帯を組町と呼び、中組町、後組町などがあり、通称「おコン町」と呼ばれていた。

○庚申野

庚申とは青面金剛、帝釈天などの信仰が混合したもので「猿田彦命」を祀り、道ばたに石碑を立てて悪霊を払い、その場所を庚申野といい沢、芳野辺りをそう呼んでいた。

　　労金横を左に折れて向う道を庚申野道と呼んだ。

○白山道

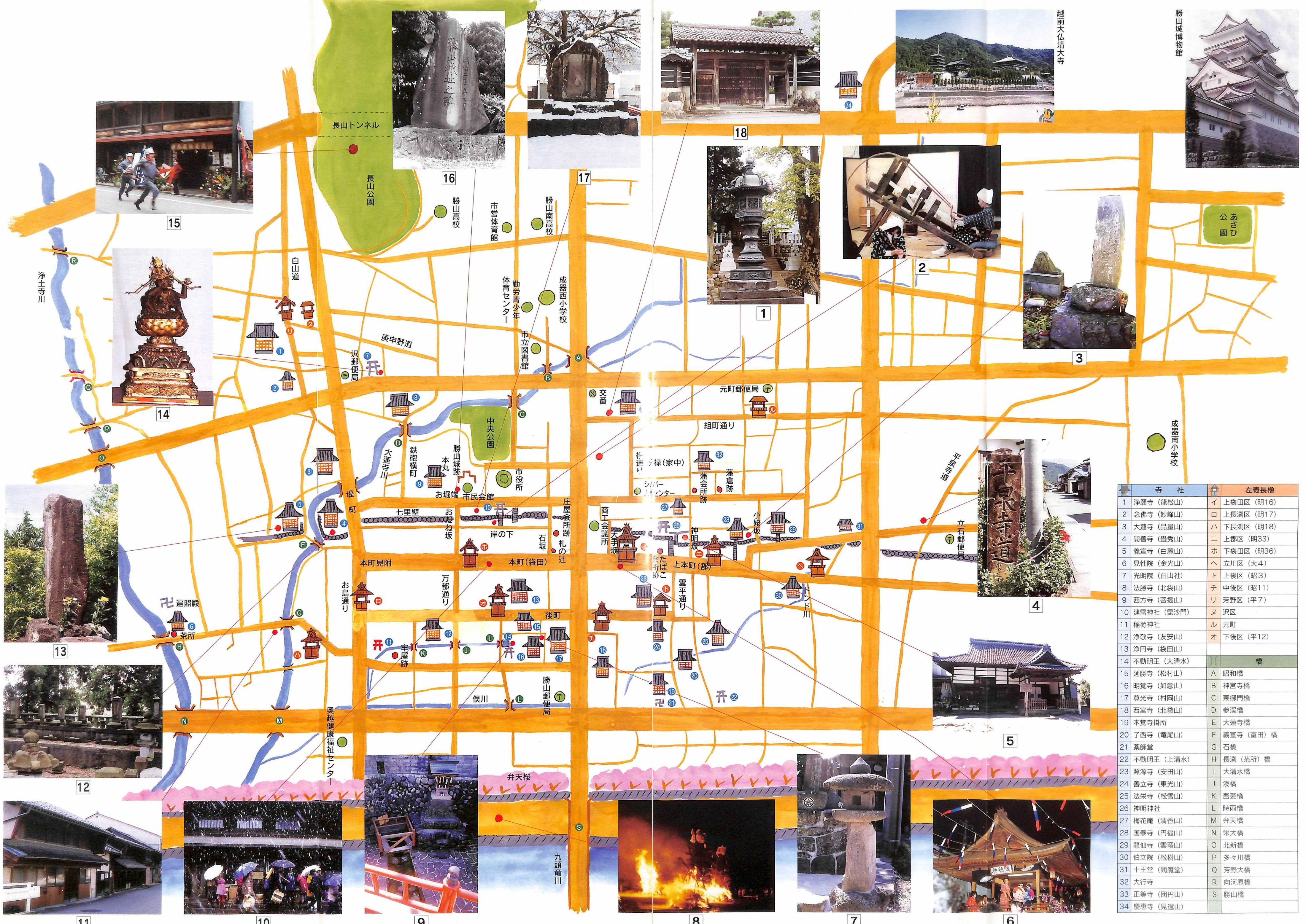
芳野が町として成立し淨願寺や念佛寺の通りは古くから牛首や加賀新保への主要道路で白山道と呼ばれていた。

明和5年（1768）に淨願寺上の三叉路に建てられたと思われる石柱に「白山道、中の橋道」と刻まれた小さな道標が今も近くに残っている。

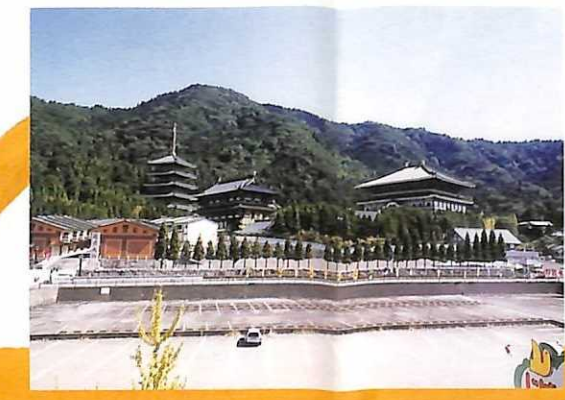
○八幡神社と神宮寺跡

旧木下機業場の辺りに小笠原貞信が勝山に入封した時に小笠原家の氏神である八幡神社とその別当神宮寺が建てられた。

明治になり八幡神社は神明神社に合祀され、神宮寺は廃寺となった。神宮寺川にかかる西小学校前の橋を神宮寺橋といい、県道から中央公園手前の橋は東御門が建っていた所で人々は東御門橋と呼んでいた。



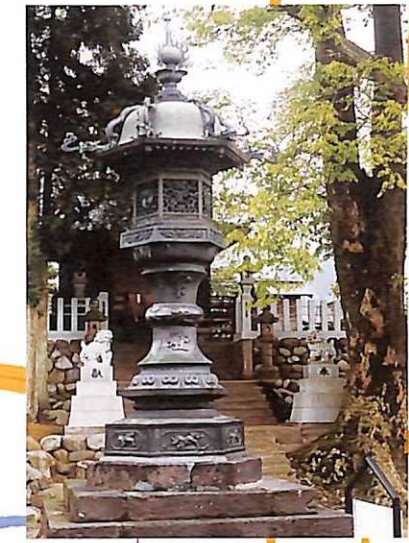
勝山城博物館



越前大仏清大寺



18



1



2



3

あさひ公園

成器南小学校

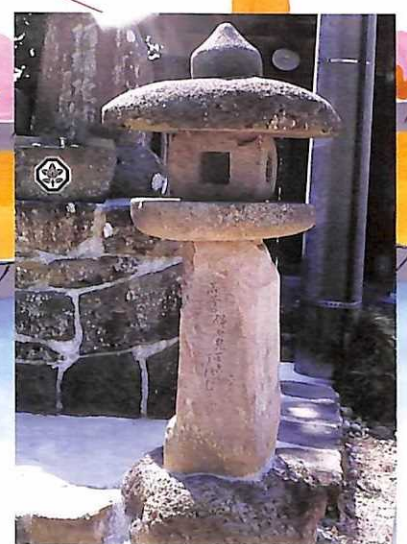
寺社	左義長櫓
1 浄願寺 (龍松山)	イ 上袋田区 (明16)
2 念佛寺 (妙峰山)	ロ 上長洲区 (明17)
3 大蓮寺 (品量山)	ハ 下長洲区 (明18)
4 開善寺 (曇秀山)	ニ 上郡区 (明33)
5 義宣寺 (白麓山)	ホ 下袋田区 (明36)
6 見性院 (金光山)	ヘ 立川区 (大4)
7 光明院 (白山社)	ト 上後区 (昭3)
8 法勝寺 (北袋山)	チ 中後区 (昭11)
9 西方寺 (菩提山)	リ 芳野区 (平7)
10 建雷神社 (毘沙門)	又 沢区
11 稲荷神社	ル 元町
12 浄敬寺 (友安山)	オ 下後区 (平12)
13 浄円寺 (袋田山)	
14 不動明王 (大清水)	橋
15 延勝寺 (松村山)	A 昭和橋
16 明覚寺 (如意山)	B 神宮寺橋
17 尊光寺 (村岡山)	C 東御門橋
18 西宮寺 (北袋山)	D 参溪橋
19 本覚寺掛所	E 大蓮寺橋
20 了西寺 (竜尾山)	F 義宣寺 (富田) 橋
21 葉師堂	G 石橋
22 不動明王 (上清水)	H 長洲 (茶所) 橋
23 照源寺 (安田山)	I 大清水橋
24 善立寺 (東光山)	J 湊橋
25 法栄寺 (松雪山)	K 吾妻橋
26 神明神社	L 時雨橋
27 梅花庵 (清香山)	M 弁天橋
28 国泰寺 (円福山)	N 栄大橋
29 龍仙寺 (雲竜山)	O 北新橋
30 伯立院 (松樹山)	P 多々川橋
31 十王堂 (閻魔堂)	Q 芳野大橋
32 大行寺	R 向河原橋
33 正等寺 (団円山)	S 勝山橋
34 慶恵寺 (見還山)	



5



8



7



6



11



10



9



12



13



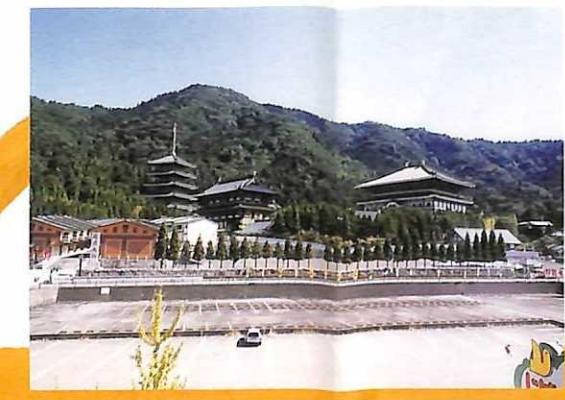
15



16



17



34